

遊びは仕事、仕事は遊び
遊びは仕事、仕事は遊び
仕事は遊び、遊びは仕事
仕事は遊び、遊びは仕事
遊びは遊び、遊びは遊び
遊びは遊び、遊びは遊び

大浦総合研究所

大浦勇三 著

ビジネス梁塵秘抄（一）

目次

はじめに

第一部

〔遊〕

遊びをせんとや生れけん

第二部

〔献〕

仕事をせんとや生れけん

第三部

〔学〕

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まれました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

**遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。**（岩波文庫版）

が有名です。

現在、日本をとり巻く環境は、平安時代末期に負けず劣らずの大変革期にあり、その規模はグローバルな広がりを持っています。グローバル規模の動きになればなるほど、あらためて日本の文化風土、日本人の特性が一段と問われることとなります。

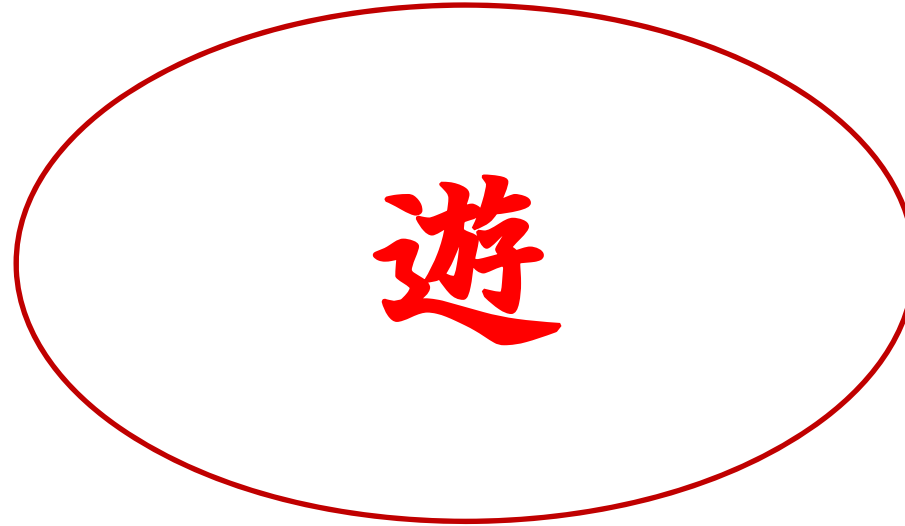
この二〇年、日本はなかなか前に進めず、ある意味で後退を余儀なくされましたが、「後ろ向きで前に進む」ことには限界があります。前へ進もうとする以上、きちんと正面を向く必要があります。平安時代の日本人は、乱世の中で的人生を「遊び」「戯れ」と肚をくくり、難題や障害と真正面から向き合い、それを乗り越え生き抜いてきました。

二二世紀の我々も、この文化風土と特性をもう一度再認識し、覚悟を決めて思いを深め、生活と仕事に希望と喜びを見出していききたいものです。

本書は、仕事を通じて少しづつ抽斗（ひきだし）にため込んできたものを、真つ平御免の何でもありの形式で纏めたものです。しかし、文学的素養などの力不足はいかんともし難く、お手本の「梁塵秘抄」とは比べることが憚れるレベルの内容になってしまいました。ただ、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する思いの深さだけは忘れず、無我夢中でまとめたことだけはお汲みとりいただき、なにとぞご寛恕いただければ幸いです。

東京・芝にて

大浦 勇三



遊びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
二ページ、六文を抜粋

○世の中は地獄の上の花見かな、と小林一茶 葛飾北斎の心情とそのまま重なる絵を描くことしか眼中にない人間の覚悟と楽観 七〇歳までの絵はすべて否定九〇回も転居し、画号は三〇回も変えた 九〇歳を超える年齢まで頂点を追う小布施でも 目覚めた床の上で、毎朝三枚の獅子図を描く、その遊び心と執念

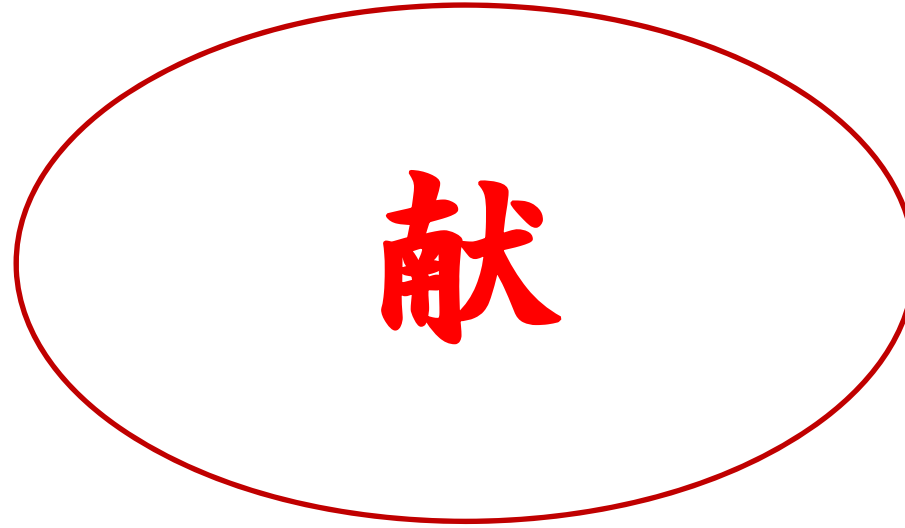
○宮本武蔵が決闘で使った木刀は 佐々木小次郎の刀より長くつくったという常に相手より、長い刀で勝ってきた小次郎への 逆手をとった作戦といえる勝機を冷静に見極めたうえで、周到に準備 神仏は敬うが、頼らない自然体野生動物は、最後まで弱気を見せないもの 土壇場でも孤独だけは怖れない

○過去から学び、理解を深めつつ未来を開く 正解は一つとは限らないダーウィンが、ヴィーグル号に乗ったのは二〇歳 種の起源は五〇歳 最初から、完璧であるはずがない ただ、研究領域は狭く限定せず専門内外の理論や知識を、広範・貪欲にとり込み 仮説を磨き続けた

○ローマ帝国繁栄の要因　まず指摘されるのは、しぶとく柔軟な思考力と戦略性
武力を誇示せず、恐怖心や警戒心を取り除く　あらゆる不幸・不運を許容する
武力に自信をもつカルタゴにはなかったもの　生も偶然なら、死も偶然と得心
個人や組織も、知識とスキルの習熟度を高める　元手をかけたものは壊れない

○米国選手フオスベリーの背面跳びは　走り高跳びの世界を、革命的に変えた
一九六〇年代　この背面跳びには　誰もが最初は、奇異に感じてバカにした
ベリーロールからの一八〇度の転換　ライバル選手は、別のスポーツと錯覚
画期的な発明と同じ　最初は誰にも受け入れられず、奇妙で阿呆に映るもの

○ミッドウエー海戦の失敗要因　目的が複数で、一つに絞りきれなかったこと
優先度を順位付けできなかったこと　作戦が複雑で単純明解でなかったこと
リスクが高い割に、情報の収集／共有が不十分だったことが指摘されている
最も反省すべき点　状況が大きく変っても初期計画を見直さず固執したこと



仕事をせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
二ページ、六文を抜粹

○ GE上級幹部研修 CEOだったジャック・ウェルチは、繰り返し問いかけた良い、悪いの両方をみる GEの長所・短所は何か 日常業務での不満は何か自分が会長になったら最初の一ヶ月で何をするか 何よりも人を中核に据えるビジネス拡大や業績向上は前提 ただ、戦略よりも人材を、常に上位に置いた

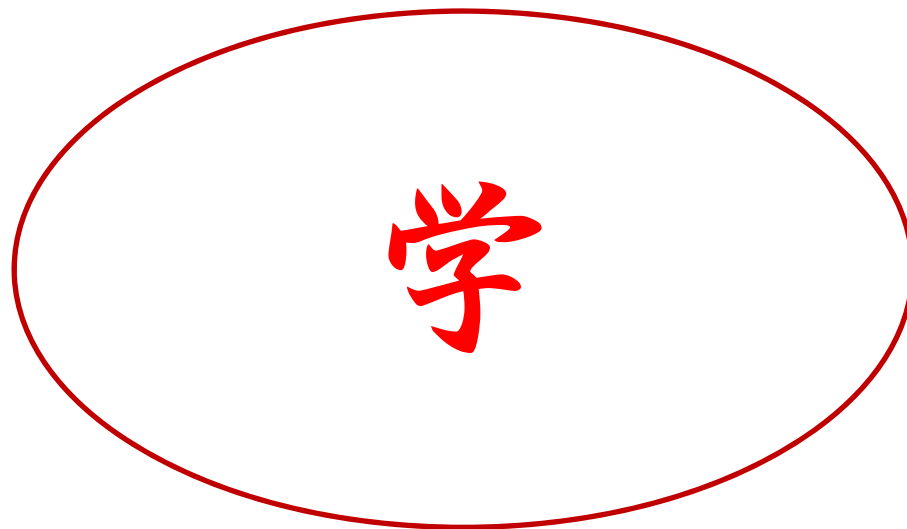
○ 米国デュポン 新規開発プロジェクトでは、多様な国籍の人材を投入するぎりぎりまで追い詰められた議論では、生まれ育った文化風土が顔を出す コミュニティは、多様性の成果を生み出す器 やり方だけに汲々としてない 大事なのは異質性の許容 縄文時代から現代まで約一万年 すべては同根

○ ヘンリー・フォード 顧客に何が欲しいか聞いたら、もっと速い馬がいいと答える DVD ビデオデッキが前提であれば、もっと速く巻き戻しできればベターとなる その延長線上に、自動車・DVDは存在しない 絶対という視点を極力相対化する 顧客には未来を想像する助けを求めない、期待しない 果報は練って待つしかない

○プロトタイプづくりでは、あまり、精度のレベルにはこだわらない方がいいアイデアをラフな段階でプロトタイプ化する。アイデアの深掘りにつながるそのような組織文化風土を創りあげることが使命、とデザイン会社IDEO早く成功したければ、何度でも失敗することだ。大きな失敗の回避にもなる

○ルー・ガースナーの米IBM改革。仕事の優先順位を明確にする社風をつくる。技術の発明ではなく、製品をもつと意識し、イノベーションを生む組織にする。組織、報酬制度、社内文化に配慮。対話を増やし、会社の現状・指針を伝える。製品を簡素化することで、瞬時に変化する顧客ニーズに、対応するモノづくり

○飛行機といえばライト兄弟。飛行機への挑戦はライト兄弟だけでなかった。では、ライト兄弟だけが、なぜ成功したのか。なぜ後世に名を残したのか。あの時代、飛行機に挑戦する人間は、冒険心や技術的関心も大いにあった。ライト兄弟が、他と比べて圧倒的に抜きん出たのは、何と金儲けへの執念



学びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
二ページ、六文を抜粹

○巨財を築いた大阪商人 あらゆる道楽をし尽くし、究極の道楽は学問
自分の人生、心から納得したい お金があるだけでは、往生できない
学問は 自らの身を守り、他人さまを助ける術 人生を味わい尽くす
着物も人生も 時間をかけてこそ、身に馴染む それを最上と心得る

○トレーニング、意識的に身体をいじめる 食うための肉体労働、無意識に労わる
双葉山、初代若乃花、鉄腕稲尾 だからこそ、彼らはあるなしぶとく強かった
身体を労わること これが、身体活動の、効率化と強靱さと粘りをつくりあげる
仕事はアウトプットが命 食うための肉体労働は、アウトプットが鮮明に見える

○専門家は、専門以外の勉強が必要ないという訳ではない むしろ力の源泉
手塚治虫 漫画家になるなら漫画を読むな、漫画以外を勉強しろと繰返す
安易な道ではないけれど やる以上は、そこまで覚悟して肚をくくること
専門だけの仕事に閉じこもると 内容が薄っぺらになり、最後は行き詰る

○イタリアが生んだ天才、レオナルド・ダ・ヴィンチ フランスの古城に眠る
フランソワ一世の招きによるものだ フランスに渡ったのは、晩年の六四歳
最高傑作のモナリザは、最後まで手元から離さず 亡くなったのは、六七歳
生涯、手を入れ続けた その意味からも、モナリザは永遠の未完成の大傑作

○自分が貰きたい仕事、ひたすら忠実に生きる 落語の世界、前座からスタート
前座のプロになる訳ではない 完璧な前座は二つ目以降は案外伸びないという
売れる人、うまくなる人は 楽屋仕事も大事だが、余力をすべて稽古に当てる
稽古を一杯やった人が、最後は頂点に立つ どの世界も同じ、混沌を生き抜く

○レンブラントの絵 若き絶頂期の時代のよりも、破産してからの方が良いといわれる
人間のやることは面白い あまり目先の判断だけで良し悪しを決めつけられない方が
順調と思っていたらどん底、どん底からの復活 何を基準にするかで手立ては異なる
今が最悪と思っても、どんでん返しがある 進むか、退くか 基本は前へ進む

大浦勇三（おおoura ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.mm.jp.or.jp/oura/>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。主な著書には、

- ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清語舎）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解 ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「ビジネス梁塵秘抄（一）」（**抜粋**）

著者 大浦勇三

二〇二二年一月 初版 第二刷発行

大浦総合研究所

〒一〇八・〇〇一四 東京都港区芝四丁目一六・一・二〇〇五

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。